

国際交流のひろば

第238号 2022年12月

留学生が語る／留学生と語る会

12月7日(水) 16:30からOpen MUJI (無印良品直江津)において開催し、市民、学生、教職員など36名が参加しました。

今回は『新型コロナで変化した学生生活についてふりかえろう!』というテーマで、吉田留学生支援専門部会委員の進行のもと、留学生5名(チリ、インド、カザフスタン、韓国、中国)が自国の様子を語り、上越国際交流協会の佐藤事務局長から上越市の国際交流についてお話をいただきました。

意見交換では「アフターコロナでしたいことは何ですか」という質問に対し、留学生は「マスクのない生活をしたい」「一時帰国したい」「マスクをとって、ちゃんとメイクをしたい」など答えていました。

参加者からは「外国の人たちから聞く生の声は参考になる」「国によって違うと思っていたが、共通点が多かった」「人生をポジティブに過ごそうとしていることが分かった」などの感想が寄せられました。



J.TESTの受験と講評



11月5日(土) 本学において、留学生がJ. TEST 実用日本語検定(A-Cレベル)を受験しました。

留学生が受験したものは中級から上級向けのもので、本学では留学生の日本語能力を公正かつ客観的に評価し、今後の日本語支援に役立てることを目的に毎年実施しています。難易度は毎回一定のため、毎年受験することにより日本語力の進歩が分かります。

12月9日(金) 人104において、田島留学生支援専門部会委員より試験の成績通知と講評を行いました。



世界を語ろう!

11月30日(水)から留学生交流プラザにおいて「世界を語ろう!」を実施し、留学生、日本人学生、教職員が集まり、世界の文化・生活・言葉などについて交流しました。

11/30カリペノヴァ・サマルさん(カザフスタン)、12/5趙静さん(中国)、12/14モハンティ・ディビヤさん(インド)が語り手となり、自国の紹介をし、各国の早口言葉を紹介しあうなど、和気あいあいと楽しい時間を過ごしました。



外国人研究者 高鵬飛先生の紹介



12月22日(木)学長室において、外国人研究者の高鵬飛(ガオ・ポンフェ)先生が林学長に挨拶を行いました。過去に上越教育大学を訪問した経験や、コロナウイルスの影響で入国できなかった経緯などについて、林学長と懇談しました。

高先生は、重慶外語外事学院の所属で、12月9日(金)に来日しました。小埜教授が受け入れ教員で、上越に1年間滞在する予定です。

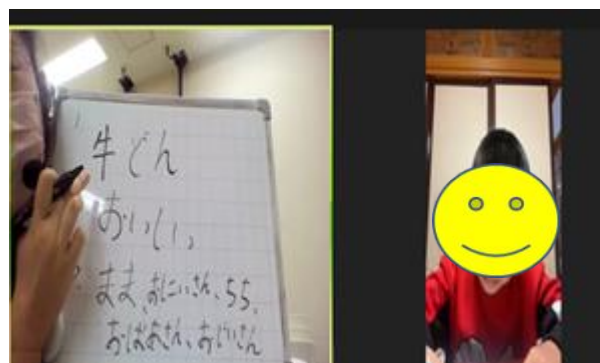
専門は日本文学で、日本では小川未明の文学などを研究します。

外国につながる子どもたちへの修学支援事業 冬休みの宿題教室

12月26日(月)27日(火)冬休みの宿題教室を実施しました。

令和4年度外国につながる子どもたちへの修学支援事業によるもので、上越地域在住の外国につながる子どもたちを対象に学習支援を行うものです。

外国人留学生及び日本人学生14名が支援者として参加し、児童生徒17名が冬休みの宿題の中で一人では取り組むことが難しい部分を中心にWeb会議システムを利用したオンラインでの支援を行いました。兄弟がいる児童でのグループ支援も行い、本学の留学生と日本人学生は、臨機応変に対応しました。



発行・お問い合わせ先

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地 上越教育大学 国際交流推進センター「国際交流のひろば」
Tel:025-521-3665 (研究連携課 国際交流・地域連携チーム)